

令和5年度諫早市地域包括ケア推進協議会 要旨

(提案・アドバイス・感想抜粋)

【地域包括ケアシステム】

- 多様化していく中で、今のシステムが本当に対応できるんだろうかと感じる。自分の専門分野だけでは、最終的にはなかなか解決しない。遠くの親類よりも近くの他人だと、福祉的には思っている。だから地域のコミュニケーションといったものがないと、恐らく、市が一生懸命になったり、それぞれの分野が一生懸命になっても、なかなか先へは進まない。
- 「システム」と言っても、正直ぼんやりしている。諫早市は高齢者が年取っても住み慣れた都市になっているのか、それが本来の地域包括ケアの推進の深化なのかなと思う。そこも踏まえて、市民の声を拾い上げる満足度の確認をされていくといいのではないかと思った。

【認知症対策推進事業】

- 認知症サポーター養成講座は実施しているが、サポーターの活用に至っていないとあるが、私たちも、具体的にどんな形で一般の方や地域での活用につなげられるか、難しい問題と思う。行政ではどんなことをイメージされているか。
 - 認知症のサポーター養成講座は、消防団や市役所の新規採用職員また、今年度は鎮西学院大学などで実施。その中で、アルツハイマー月間において学生と一緒にチラシの配布を行ったり、養成講座で得た知識をもって一緒に活動していただくというような方向で進んでいるところ。
- 事業所あたりにもう少し認知症の理解を進めるような対応を考えていく必要があるのでは。事業所単位で研修をすとか、店長さんとか販売員の皆さんの集まりとか、何とかできないものか。
 - 認知症高齢者の方々が立ち寄りそうな場所に携わる方々にアプローチ、市の事業説明をしながらやっていきたいと考えている。今度商工会議所をお願いし、地域包括ケアシステムの取組について(認知症含む)について説明をさせていただきたいと思う。

○通所サービスなどの事業所に関しては、運転士や介護の勉強を全然されてなくて働いた方は、令和6年度から確実に、認知症に対しての研修を受けないといけないとなっている。そこは介護事業所だけかもしれないが、少しずつ地域社会に出て、新人の研修会とか、企業に入る場合に研修があるとかなってくればいいなと思う。そういった研修をするのは協力できればと思うし、そういった形で普及啓発ができればなと思う。

○認知症サポーターの研修とかをコンビニ業界とかに働きかけていることはあるか。

→サポーター養成講座というところまでっていないが、市内のコンビニエンスストアにオレンジガイドを設置していただく際に、お店の窓口で、お困りのことや事例などお尋ねして、いろんな形でのおつなぎができるようにと努力しているところ。

【その他】

○デイサービス事業所の充足の状況や、聞くところによると、利用者が減り事業所が成り立たないというところも出てきたとか、実態や状況について、何か把握してあるか。

→確かに利用者も減ってきている。事業所自体も人材が不足していることもあり、特にヘルパー事業所のほうは一番減ってきていると状況を伺っているところ。

○最終的にどこが誰がどうするという話になってくると、地域連携は民生委員さんだとなる。使命感だけで皆さんやりましょうは通用しないと思う。言うのは簡単だけど、実際は簡単にはいかないというのが現実だと私は思う。

→できるだけ民生委員だけで抱え込むということがないように、私どものほうにも情報をいただければ、一緒に解決に向けていきたいなと思っている。御家族や御近所、チームとして支援できるところについては包括のほうにキーとなって働かせていただきたいと思っている。